

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録 (2013.03) 平成23年度:141-146.

放射線治療における看護師の役割
～緩和的放射線治療を受ける患者を通して～

野中雅人

2011年11月26日(土)
 独立行政法人国立病院機構 北海道がんセンター
 緩和医療患者のQOL推進講習会

放射線治療における看護師の役割

～緩和的放射線治療を受ける患者を通して～

国立大学法人 旭川医科大学病院
 がん放射線療法看護 認定看護師
 野中 雅人

1

本日の内容

- 1旭川医科大学病院の紹介
- 2がん放射線療法看護とは
- 3転移性骨腫瘍患者への放射線療法看護
- 4事例紹介

2

旭川医科大学病院

- 地域がん診療連携拠点病院
- 病床数 602床
- 看護職員数 640名
- 放射線治療患者 2010年度

総治療患者数	503名
新患者数	404名
根治照射(術後照射を含む)	265名
姑息照射	226名
その他(TBIなど)	9名



3

看護部組織図



4

放射線治療部門



5

がん放射線療法看護 認定看護師

がん対策基本法「がん対策推進基本計画」
 放射線療法看護の質向上を目的に領域認定

- 京都府看護協会 認定看護師教育課程
2009年開校
- 2010年8月入学～2011年2月卒業
6月認定資格取得
- 全国64名(北海道3名)活動中

6

本日の内容

- 1 旭川医科大学病院の紹介
- 2 がん放射線療法看護とは
- 3 転移性骨腫瘍患者への放射線療法看護
- 4 事例紹介

7

がん放射線療法看護

放射線療法を理解し
患者の目標に沿った看護ケアの提供

身体的、心理的、社会的情報を統合し、患者と共に設定した目標に向かってともに歩む

- 有害事象の予防と
症状緩和のためのアセスメントとケアの提供
- セルフケア能力の維持、向上を支援する

8

放射線療法を受ける患者への支援

- 治療効果を最大限に得ること
- 有害事象が最小限であること

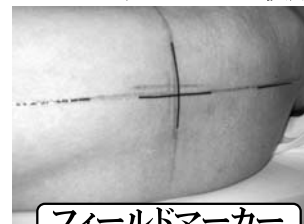


- 治療スケジュールを完遂すること
- 毎日同じ条件で照射を行うこと

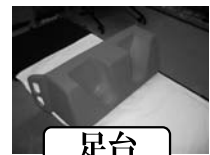
9

毎日同じ条件で治療するために

- 患者への十分なオリエンテーション
マーキングを消さないよう指導
- フィールドマーカ―の使用



フィールドマーカ―



足台



マーカ―ペン

10

毎日同じ条件で治療するために

- 固定具の使用
- 治療時間に焦点を合わせた症状コントロール
- 身体状況の観察
- 安全安楽への援助



シェル



11

放射線療法を受ける患者が抱える問題

- 治療過程でのストレス
- 治療継続に伴う諸問題
- 身体的症状
- 不安

12

患者が抱える不安



13

看護師の役割

- 不安の軽減
- 意思決定支援
- 治療への適応を促す
- セルフケア能力の維持、向上を支援する
- 有害事象のリスクアセスメントと予防
- 症状マネジメント

14

本日の内容

- 1 旭川医科大学病院の紹介
- 2 がん放射線療法看護とは
- 3 転移性骨腫瘍患者への放射線療法看護
- 4 事例紹介

15

患者が知りたいこと

- どんな症状か
- いつ出現するか
- 症状の程度は
- ピークはいつか
- 対処方法はあるか
- いつ改善するか

16

放射線治療の鎮痛作用

放射線治療は、
炎症による発痛物質の
発生を抑制する

- 照射1回で鎮痛効果が表れる場合もある
- 通常2~3週間で鎮痛効果が現れる

17

ペインフレア現象

- 治療開始2~3日後に疼痛が増強する
場合がある
- 一時的な疼痛増強であり、薬物による
鎮痛を行う

突出痛

アキュートペインサービス
(急性疼痛対策)

18

放射線治療による効果

- 治療施行後の疼痛緩和率

部分寛解が70～80%
完全寛解が40%

- 化骨(腫瘍によって脆くなった骨の再生)

2～6か月を要する

19

骨転移がある患者の苦悩

- 身体的苦痛が増加(痛み、しびれ、動けない)
- 他人の介助を必要とする場面が増え、自尊心が損なわれる
- 今後の生活への見通しがつかない苛立ち
- 常に脊髄圧迫や骨折のリスクがあり、日常生活の制限からの苛立ち
- スピリチュアルペイン

兵庫県立粒子線医療センター がん専門看護師 藤本美生氏より

20

転移性骨腫瘍に対する 放射線療法看護

- 疼痛や麻痺、骨折リスクのある患者をどのように治療完遂へ導くか
- 症状をコントロールしながら安全で安楽な治療への援助を行う
- 患部に荷重をかけない日常生活の指導が大切である

21

本日の内容

- 旭川医科大学病院の紹介
- がん放射線療法看護とは
- 転移性骨腫瘍患者への放射線療法看護
- 事例紹介

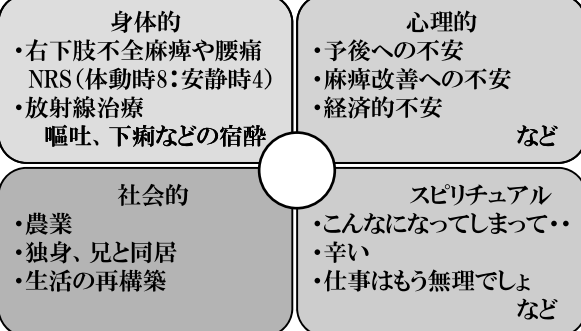
22

事例紹介

- A氏 50歳代 女性
- 疾患: 乳がん原発、多発性骨転移、肝転移
- 10年前よりしこりを自覚していたが、放置していた
- XX年9月 腰痛と、右下肢不全麻痺あり(右膝屈曲可能・右下肢挙上不可) 近医受診し、転移性骨腫瘍認める(L3 脊柱管圧迫あり)
- 同年10月 緩和目的の放射線治療 L2-4へ、30Gy/10回 10MV X線

23

トータルペイン(全人的苦痛)



24

危機介入

- 不安がある中で、遠方の病院での治療をしなければならない
- 知り合いはいないため、心を許せる相手がいらない
- 疼痛、麻痺に意識が集中しているが、今後疼痛や麻痺の回復にともない、様々な危機的プロセスを経る可能性がある

25

A氏の目標

患者の望み: 再び歩けるようになること



予定された治療スケジュールを完遂する

完遂のために必要な支援

- 治療を継続するために、疼痛管理、腰部に荷重をかけない生活調整を実施する
- がん告知により衝撃を受けており、心理的支援を実施する

26

治療開始前の看護

- 病棟看護師との連携
- 放射線科医師や診療放射線技師との連携
- 患者の全体(患者)像を把握する
- 有害反応に対する予防と対策を明確にしておく
- 不安の軽減
- セルフケア能力の維持、向上を図る
- 副作用や日常生活の注意点などについて教育や指導を行う

27

安楽に治療を受けるために



治療体位が維持できるように膝枕やバスタオルなどで調整

28

治療中の看護

治療を受け続けるために支援する

- 放射線科医師や診療放射線技師との連携
- マーキングの観察
- 疼痛や神経症状などを観察する
- 鎮痛薬が適切に使われているか
- 治療が安楽に受けられるよう、移動介助などを支援する
- 日常生活の注意点を守れているか
- 精神的サポート

29

治療後の看護

- 病棟看護師との連携
- 鎮痛や化骨効果を得るまでの生活調整
- 家族へも知識提供し、協力体制を構築する
- 精神的サポート
 - 骨折に対する不安
 - 予後に対する不安
 - 副作用に対する不安
 - 社会復帰への不安 など

30

A氏の経過

30Gy/10回実施により

- 腰痛は安静時NRS1・寝返りなど体動時2
- 麻痺は右膝屈曲可能のまま改善せず
- 家族のいる地元病院へ転院し、治療継続
- 突然のがん告知から治療までの期間が短くショックを受けていたが、治療を完遂することができた

31

チーム医療における看護師のリーダーシップ

- その人らしさの尊重
- 患者をチームメンバーにすること
- 患者の意思決定を支える
- 倫理的配慮
- セルフケア能力を高めるケア
- 症状緩和
- 生活を豊かにする創意工夫
- チーム医療の推進・調整
- 全体を見る

濱口恵子氏より

32

物語られるいのち(人生)を知る

患者としてではなく、一人の人として
家族の様子・どんな仕事
病気を知らされたときのこと
どんな町のどんな家
好きな食べ物
思い出に残っていること

何を大切と思っているか
どのような生活を続けたいか
そのためにどのような治療をうけたいか

石垣靖子氏より 33

参考文献

- 1) 田村恵子:がんの症状緩和ベストナーシング, 2010, 学研メディカル秀潤社
- 2) がん診療レジデントマニュアル第5版
- 3) 放射線治療計画ガイドライン2008
- 4) 藤本美生編:放射線治療を受けるがん患者の看護ケア, 2008, 日本看護協会出版会
- 5) 辻井博彦監修:クリニカル・ナースBOOK がん放射線治療とケア・マニュアル, 2003, 医学芸術会
- 6) 近藤まゆみ:放射線治療を受けるがんサバイバーへの看護ケア, 2009, 医歯薬出版株式会社

34